

に、生徒の個別の経験や趣味やこだわり等を弃図のように絡めたら何が出てくるかという活動もよいかもかもしれない。

### ○オンラインでの課題研究の指導についての回答

この質問に対する回答は、委員によって状況が異なるため、省略する。概ね好意的に受けとめてくれており、協力的なおファーをいただいている。

### 3 普通科課題研究についての回答

- ・「結果」の記述について、統計手法も様々で、処理条件が異なるので、「t検定」など具体的な方法を記載した方がよい。
- ・普通科の研究には、理科系のものも文化系のものもある、両者では、研究に対する考えが大きく異なっている。このため普通科の研究指導に関しては、その内容に応じた適切な指導が必要であろう。なお、エクセルについては、主に統計機能中心の説明となっているが、検定などは、知識無しにやり方を教えると、意味のない解析が横行することになるので、注意が必要である。あと、エクセルでは数値シミュレーションは非常に有効なものなので、その実例も含めるとよい。
- ・参考文献の記載で、引用文献と参考文献を分けているが、少なくとも理系の論文では両者の区別はしない。強いて言えば、参考文献は全体に関わることになるが、その場合にはイントロの適当な場所で引用する形になる。
- ・理系の論文の引用文献は、議論の部品（例えば、研究の内容が価値あることであることを示したり、自分で証明していないことを他者が証明したことを示したりする）なので、必ず対応する場所に番号を付して、論拠が確実に分かるようにしている。このときに、査読付きの論文は、正しいものとして扱ってよいとの暗黙の前提となる。逆に言えば、Webページに掲載されている記事など、査読付きの論文でないものについては、「正しい」という保証がないので、その内容を基に議論を進めると、議論そのものが崩れてしまう危険性があるので、引用文献としては通常用いることはない。高校生の課題研究の場合は、査読付きの論文を引用する場面は少ないとは思いますが、引用の根本に関することなので、概念としては教えた方がよいと思う。引用で重要なのは引用の形式ではなく、何のために引用するかという論理である。
- ・普通科文系の研究においても、自分たちの研究の位置づけをしっかりと指導していただきたいと思う。批判的思考や、科学的思考の分析能力は、文系にこそ必要である。
- ・1年団のすべての教員が課題研究の指導を行うことは、「理数探究基礎」にも参考になり大変重要である。是非、取組を深めていただき、他校への普及につなげていただければと思っている。理数以外の教員が参加する際の、課題やメリットなどに貴校での経験を記録していただき、発信していただくと大変意義深いかと思割れる。
- ・研究テーマ/研究対象が広がるほど、評価や指導は難しくなると思う。自然科学での研究手法や評価についてはルーブリックなども用意され、かなり準備が進んでいると思われる。アンケートを元データとして研究を進める場合など、数値化された後のデータを解析する過程は同様でよいと思うが、アンケート項目や設問方法を検討する最初のプロセスが最も重要なケースも多いと思割れる。このような社会科学の調査スキルについても、検定などと同様に、文系の先生の協力を得て、少しずつでも取り入れる必要があると思う。
- ・「ガイドブック」をざっと拝見させていただいた。大変充実していると思う。問題となるのは、このガイドブックの使い方である。この授業の目標は、文系の生徒たちに、理系と同様に、探究活動（あるいは科学研究）における証拠の概念の理解、妥当性と信頼性の概念の理解、データ処理などの基本をどこまで教えることにあるか、また、文系的な探究活動の方法をどこまで教えることにあるかを、教員で共有して、授業プランを立て、楽しい導入的なアクティビティを保障する教材から、ついで真面目で本格的な手法に至るような教材までを準備して授業することだと思う。その点ではイギリスの中等教育科学の教材にはやさしいものから本格的なものまで楽しいものが多くあり、参考にされたい。

### 4 「アマキ・サイエンス・サロン」についての回答

- ・放課後に研究として取り組むこともよいと思うが、課題研究とは少し趣を変えて、何かチームでプロジェクトをするような活動も楽しいのではないかと思う。そこに科学の知識や技能を活かせたら面白い起業家も生まれるかもしれない。
- ・ドイツは時差があるので難しいが、時差が小さな国とであれば、センサーを利用して遠隔で共同で議論しながら実験を行うことができる。天城高校生が班で実験している中に、海外の生徒が一緒に入って活動をしている感覚である。時差がある場合は、天城の生徒の実験結果をオンラインで共有し、その続きをドイツで実施して、その結果をまた天城で実施して・・・のようにすれば、24時間戦える研究になるのかもしれない。
- ・生徒自ら、課題としたいテーマに関わる学術論文を検索し、論文紹介を行って研究課題となり得るかどうかなどについて議論するような内容を入れるとよいと思う。生徒の課題設定能力、課題解決のためのメンバーを募る調整力、英語論文であれば英語力などの涵養につながると思う。さらに論文著者による講演会を開催できれば、そのあとの指導にもつながる。こうした一連の取り組みを率先して行うことで、リーダー資質の修得にもつながるものと思う。
- ・生物や地学関連などに地域性の高いテーマを設定して、それを軸にして地域を巻き込んだ活動ができれば、地域（と近隣中学）への広報にもなると思う。例えば、玉島高校の溜川プロジェクトのような事業が参考になる。

## 5 海外研修についての回答

海外研修に関する回答については、概ね共通のことが多かったので、個別のコメントを基に、総括した形で記述する。

- ・国際コンテストへ応募してはどうか。
- ・一足飛びに共同研究をすることはハードルが高いので、まずは、オンラインで共通のテーマ（風力発電や家屋の耐震構造など）でディスカッションをすることから始めてはどうか。この場合、チャットは有効な手段である。
- ・欧米との間には時差があるので、アジア諸国との交流を考えればよい。
- ・オンラインで日常的に交流する機会を持つことが大切である。

## 6 指定Ⅳ期目全般に対する回答

- ・「with コロナ」の状況下、海外留学などのプログラムがしばらく実施できなくなる可能性も高いと思われるので、海外連携高校との交流を活発にするために、オンラインを駆使した活動を行っていく必要があるかと思う。
- ・Ⅲ期までのカリキュラム開発では高校側の教員と運営指導委員（研究者）との間の意見交換が不十分であったと反省している。遠隔での会議が可能となった状況なので、積極的な意見交換が行われるようになることを切に願っている。
- ・非認知能力の向上は、自分で面白い課題を見つけ、それを楽しむ「趣味」のような感覚、スタンスが大切な気がします。非認知能力は他者・社会との関わりも大切だが、実は、他者の評価を気にしすぎて、「趣味」を心から楽しめない状況が GRIT を阻害しているかもしれない。自分の世界、自分の特技、自分の価値観をしっかりと持っている人は、自然と周りに人が集まってきて、頼られ信頼され、協働で何かを成し遂げる人になる気がする。ろうと思う。
- ・カリキュラム開発については、三つの力の伸長率を定量的に可視化可能なカリキュラムにする必要がある。そのためのシラバス作成が大事であると思われる。ここには、三つの力と、三つの科目との関係性を明記しておく必要がある。最終的には、三つの力がどれくらい身についたのかについて、数値化することが、文科省からの指摘事項への明確な回答となると思う。人材育成については、科学技術人材育成と、異世代との協働を含めたリーダー育成とをいかに両立させることができるかが重要であると思う。そのためにも、「アマキ・サイエンス・サロン」が重要な役割を果たすと考えられる。
- ・「サイエンスエミネンター」は何かとの質問が多いと思う。次世代型リーダーとあるが、現（旧）世代リーダーと、どこが異なるのか。そこがよくわからない。

## 7 その他

- ・HPの整理もできており、内容も充実していると思った。
- ・ロードマップを使ったメタ認知は大変先進的で、天城のSSHの大きな成果であり、また、「理数科研究集録」の論文を生徒に添削させるパフォーマンステストも大変面白い試みだった。これまで得られた知見を上手く指導ツールにできると、成果の共有がより評価されるのではないかと思う。
- ・大変意欲的な取り組みが多いが、実施する一部の教員に過度の負担が発生しないための工夫も必要である。
- ・このように長い申請書を始めて見た。成果を期待している。

## ○第2回運営指導委員会（令和3年1月20日）での協議内容

※司会は委員長の喜多雅一 教授

まず、SSH担当者から、第1回運営指導委員会（紙上開催）で各委員から寄せられた回答についての説明を行った。これに基づいて「オンラインでの課題研究の指導の在り方」を柱として協議を行った。天城側から、本校のICT環境整備の状況について説明を行った。多くの委員から、掲示板を利用してはどうかとの意見をいただいた。掲示板を利用することで、時間の制約がなくなり、指導しやすいとのことであった。

結論として、遠方の委員からのリモートの指導、対面の指導、掲示板を利用した双方向のやりとりの三つをうまく組み合わせると最適な指導（ベストミックス）を行うとよいとの結論に達した。

### 【運営指導委員一覧】

氏名	所属	職名
有 安 利 夫	株式会社 林原 / NAGASE Group	課長
石 川 謙	東京工業大学物質理工学院	准教授
稲 田 佳 彦	岡山大学大学院教育学研究科	教授
喜 多 雅 一	岡山大学大学院教育学研究科	教授
平 野 博 之	岡山理科大学工学部 バイオ・応用化学科	副学長・教授
松 原 憲 治	文部科学省国立教育政策研究所 教育課程研究センター	総括研究官
味 野 道 信	岡山大学グローバル人材育成院(GDP)	教授
三 村 真 紀 子	岡山大学大学院自然科学研究科	准教授
笠 潤 平	香川大学教育学部	教授

資料2 普通科課題研究テーマ一覧

※理数科課題研究のテーマは、「Ⅲ 報告」の「第3章」「第1節」に記載している。  
 ※令和2年度普通科2年次「総合的な探究の時間」で実施した課題研究のテーマは、令和元年度の1年次生の課題研究のテーマと同一である。これらのテーマについては、令和元年度の「SSH研究開発実施報告書」に記載している。

令和2年度 普通科1年次生 学校設定教科「サイエンス」  
 科目「AFPリサーチ」「AFPエクスペリメンション」研究テーマ一覧（9分野46班）

物理	P01	スライドガラスを守ろう！
	P02	スライドガラスの強度を強くするための補強の提
	P03	紙飛行機の紙質と加える力と滞空時間の関係
	P04	ダイラタント流体の溶媒とダイラタンシーの発生の関係
	P05	渦電流ブレーキの基礎研究 ～磁石と銅板の間隔と移動速度の関係について～
	P06	睡眠の質について
	P07	机上でスイングバイ航法を再現した装置の製作
	P08	バックウォーター現象の発生と飛騨川の関係
化学	C01	次亜塩素酸ナトリウムの有効塩素濃度における殺菌効果
	C02	次亜塩素酸水とアルコールの殺菌効果
	C03	食品のバクテリアに対する抗菌効果
	C04	おにぎりの保存方法
	C05	植物栄養素たっぷりのグレープフルーツを美味しく食べよう！
	C06	豆腐探検隊～身近なもので豆腐を作ろう～
	C07	建材の調湿性と吸水性の関係
	C08	おいしく食べてダイエット！？
生物	B01	ニホントカゲとニホンカナヘビの外部形態の比較と登坂能力の違い
	B02	納豆菌の耐えられる温度とpHを調べる
	B03	スクミリンゴガイ（ジャンボタニシ）の活動が活性化する条件
数学	M01	あとだしを加えた際の勝率
	M02	3D円グラフによる印象操作
外国語	E01	国民性と政治
	E02	ことわざから見る日本とアメリカの考え方の違い
	E03	中学英語文法の克服に向けて
	E04	流行語と国民性はどの程度関係するのか
	E05	北欧国を参考にした幸福感を向上させる方法の提案
文学	L01	岡山の方言について
	L02	グリム童話と森の関係性～グリムと人と森と～
地歴	H01	備前刀と他の生産地の刀剣を比較
	H02	当時の地図の復元から平氏の戦略を考察する
	H03	他国の経済史上の政策から日本の問題に対する有効な解決策を提案する
	H04	ディズニーランドが次に建設される都市はどこか
体育	G01	ウォーキングで記憶力UP！
	G02	1000m 走と音楽のテンポの関係
	G03	過去に普通科で甲子園に出場した高校の事例から天城が甲子園に出場する方法を考える
社会学	S01	ファミリーコンピュータが日本の家庭用ゲーム機の寡占市場に与えた影響
	S02	もっと快適な岡山に！
	S03	日本でA社の製品が支持される理由
	S04	オリンピックが与える経済効果
	S05	Society 5.0に向けた生徒の学習と生活のレベルを向上させるための提案
	S06	神社に観光客を集める最も効果的な方法
	S07	A 色の魅せ方 影の色について B 色の魅せ方
	S08	インテリアとファッションの違いを色彩心理から見よう
	S09	パブリカはなぜヒットしたのか
	S10	サブスクリプション方式の適性

### 資料3 用語集

本校で独自に使用している用語及びその概念などについて解説を加える。

サイエンスエミネンター	S S H指定第Ⅳ期で育成するとして本校が定義した人材のことである。科学技術の分野で活躍できる Eminent (卓越した) な人材で、第Ⅳ期で定義した三つの力を兼ね備えたものとしている。なお、「Eminenter」という英語表現はなく、本校の造語である。
GⅢの資質・能力とGⅣの力	S S H指定第Ⅲ期で育成したいとした資質・能力を「GⅢの資質・能力」などと表現し、第Ⅳ期で育成したいとした力を「GⅣの力」などと表現している。具体的には、GⅢの資質・能力は「インテイク力」「メタ認知力」「コミュニケーション力」で、GⅣの力は「課題追究力」「異分野統合力」「異世代協働力」である。
インテイク力	S S H指定第Ⅲ期で定義した三つの資質・能力の一つで、研究活動に必要な情報を論文やインターネットから抽出する能力としている。この概念に近い日本語がないため、英語で一般的に使われている「Intake (取り込む)」を借用している。
アマキ・サイエンス・サロン (A S S)	国際科学技術コンテストを目指す「天城塾」の取組や「科学の甲子園全国大会」を目指す自主的な活動などを統合・拡充し、S S H指定第Ⅳ期で育成するとしてリーダー的な人材 (サイエンスエミネンター) を育成する場 (プラットフォーム) としている。理数科・普通科の違いやサイエンス部員・その他の部員の別を問わず、構成員の興味・関心に応じた柔軟な組織とし、自主的・継続的な取組を行っている。
ASE	「Amaki Science Eminenter」の頭文字を取ったもので、学校設定教科「サイエンス」の理数科の課題研究3科目 (ASE 1st Stage, ASE 2nd Stage, ASE 3rd Stage) の科目名で使用されている。
A F P	S S H指定第Ⅱ期から使っている普通科の課題研究の名称で、「Amaki Future Project」の頭文字をとったものである。学校設定教科「サイエンス」の普通科の課題研究2科目 (A F P リサーチ, A F P エクスプレッション) の科目名で使用されている。
コーチング&アシスト	本校の課題研究の指導の在り方の基本的なスタンスで、放任ではなく、適切なコーチング (目指すべき方向を指し示す) とアシスト (物的・精神的な支援) が必要であるとしている。本校では、教員向けの指導資料として「理数科課題研究ガイドブック コーチング&アシスト」と「普通科課題研究ガイドブック コーチング&アシスト」を作成し、Web ページで公開している。
ロードマップ	「ロードマップ」とは、研究の動機、研究の計画、スケジュール、必要な物品等を1枚のペーパーにした本校独自の研究計画書で、理数科は年2回程度作成し、研究の進捗状況を教員とともに確認する。普通科は1回のみ作成し、7月下旬に「ロードマップ発表会」を実施した後に本格的な研究活動を開始する。このロードマップは、確定的なものではなく、変更可能な柔軟なものであるとして運用している。また、研究の全体像を俯瞰することができるので、理数科においては、新年度に担当教員が変わったり、外部の人材に指導・助言をうけたりするときに、1枚のペーパーで全体を把握することができ、スムーズな指導の引継ぎや効率的な助言を与えることができる。
ロードマップテスト	「ロードマップテスト」とは、普通科の生徒が作成した「ロードマップ」を理数科の生徒が見て、不十分なところを指摘し、その改善策を記述するテストである。パフォーマンステスト「ロードマップテスト」により、「メタ認知力」を育成できることが確認できている。
サイエンス・オーラルヒストリー	課題研究の各時間の終了時に振り返りの時間を設けている。この時間でのベテラン教員の指導言・評価言を記録していく活動を「サイエンス・オーラルヒストリー」と称している。この記録を基に教員向けの指導資料である「理数科課題研究ガイドブック コーチング&アシスト」と「普通科課題研究ガイドブック コーチング&アシスト」の改訂作業に反映させている。
C A S E	C A S E (Cognitive Acceleration through Science Education) とは「科学教育による認知的加速」で、科学的な事象を題材にして認識力を段階的に高めていくプログラムである。併設中学校では、「Thinking Science」(Philip Adey ら著作) をテキストにして、中学校第1学年後期 (10月) から中学校第2学年までのおよそ1.5年間で実施している。
P a R e S K (パレスク)	本校が定義し、提唱している中等教育における科学英語の取組である。「Paragraph Reading for Science with Key Words」の略語で、「タイトル、図や写真などのキャプションに記載されている専門用語などをキーワードとし、パラグラフごとの大意をつかみながら読み解いていく読解法」と定義している。実践事例や効果などの詳細は、国立研究開発法人科学技術振興機構が運営している J-Stage に掲載されている次の学術論文を参照されたい: 仲達・白神「中等教育における科学英語の実践的研究 - 倉敷天城中学校・高等学校での実践を通して -」(2018)。
サイエンスタイムとクロスカリキュラム・アーカイブス	本校では、1年次の国語、地歴・公民、英語、理科の各科目において、「科学技術と人間社会」について深く考えさせる時間を数時間程度確保しており、年間指導計画の中に位置づけている。この時間のことを「サイエンスタイム」と称している。また、この時間で使用する教材 (新聞記事やネット上の記事など) を全教員で共有できるように、校内サーバーに蓄積している。このデータベースを「クロスカリキュラム・アーカイブス」と呼んでいる。
サイエンスクリエイター	S S H指定第Ⅲ期で育成するとして人材のことである。一般的に「ゲームクリエイター」という言葉は使われているが、「サイエンスクリエイター」という言葉は本校独自の造語である。この人材は、第Ⅲ期で定義した三つの資質・能力を兼ね備えているものとしている。
サイエンスリレー	課題研究の総まとめとして、理数科3年次生全員と、普通科3年次生の希望者を対象として実施している取組で、外部でのジュニアセッションなどでの発表を意味している。

資料4 教育課程表(単位制)

普通科 平成30年度及び31年度 入学者(第3年次及び2年次)

教科	科目	校内科目名	標準 単位数	普通科									
				1年		2年文系		2年理系		3年文系		3年理系	
				単位数		単位数		単位数		単位数		単位数	
				前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
国語	国語総合		4	6		1 ♪		1 ∞₂					
	現代文B		4			2		2					
		現代文B・L 現代文B・R						2 Φ		2 Φ			
	古典B		4			4		3					
		古典B・L 古典B・R						3 \$ 1 ♪₁		3 \$			
* 評論研究		1							1 ∞				
地理歴史	世界史A		2	2									
	世界史B		4			3 ◆							
		世界史B α 世界史B β						4 @					
		世界史実践						2 * 2 ♪		1 ∞₂			
	日本史A		2			3 #							
		日本史A α 日本史A β				3 ◆							
	日本史B		4					3 ◆		3 @			
		日本史B α 日本史B β						4 @					
		日本史実践						2 * 2 ♪		1 ∞₂			
	地理A		2			3 #							
		地理A α 地理A β				3 ◆							
	地理B		4					3 ◆		3 @			
		地理B α 地理B β						4 @					
地理実践						2 * 2 ♪		1 ∞₂					
* 世界史研究		2							2 ♪				
* 日本史研究		2							2 ♪				
* 地理研究		2							2 ♪				
公民	現代社会		2	2									
	現代社会実践							1 ∞					
	倫理 政治・経済		2							2 ♪			
数学	数学I	数学I・S	3	2 §									
		数学I・U		2 §									
	数学II	数学II・S	4	1 ☆		3 ◇		2 ◇					
		数学II・U		1 ☆		3 ◇		2 ◇					
	数学III	数学III・S	5					3 全					
		数学III・U						3 全					
		数学III・L 数学III・R								2 ∴ 2 ∴			
	数学A	数学A・L	2	2 ★									
		数学A・R		2 ★									
	数学B	数学B・S	2	1 ♪									
		数学B・U		1 ♪									
数学B・L				2 □		1 □							
数学B・R				2 □		1 □							
* 精選数学		1			1 ♪								
* 応用数学	応用数学・L	4							4 ¥				
	応用数学・R								4 ¥				
* 熟成数学	熟成数学・L	3~4							3 ¥				
	熟成数学・R								3 ¥				
* 統計数学		1							1 ∞₂				
理科	物理基礎		2	1		1							
		物理基礎・L 物理基礎・R						1 ∴ 1 ∴					
	物理		4					2 ?		4 〒₁			
		物理・L 物理・R						2 ?		4 〒₁			
	化学基礎		2	1		1				2 〒			
		化学基礎・L 化学基礎・R						2 b 2 b					
	化学		4					2 Σ		4 〒			
		化学・L 化学・R						2 Σ		4 〒₂			
	生物基礎		2	1		1				2 〒			
		生物基礎・L 生物基礎・R						1 ! 1 !					
	生物		4					2 ?		4 〒			
生物・L 生物・R						2 ?		4 〒₁					
理科課題研究		1							2 ∇₁				

教科	科目	校内科目名	標準単位数	普通科									
				1年		2年文系		2年理系		3年文系		3年理系	
				単位数		単位数		単位数		単位数		単位数	
				前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
保健 体育	体育		7~8	3		2		2		2		2	
	保健		2	1		1		1					
芸 術	音楽Ⅰ		2	2△									
	音楽Ⅱ		2			3◆				2♠			
	音楽Ⅲ		2							2♠			
	美術Ⅰ		2	2△									
	美術Ⅱ		2			3◆				2♠			
	美術Ⅲ		2							2♠			
	書道Ⅰ		2	2△									
	書道Ⅱ		2			3◆				2♠			
外 国 語	コミュニケーション 英語Ⅰ	C英語Ⅰ・S	3	3○									
		C英語Ⅰ・T		3○									
		C英語Ⅰ・U		3○									
	コミュニケーション 英語Ⅱ	C英語Ⅱ・S	4	1◎									
		C英語Ⅱ・T		1◎									
		C英語Ⅱ・U		1◎									
		C英語Ⅱ・L				3▼		2▼					
	コミュニケーション 英語Ⅲ	C英語Ⅲ・L	4	1†		1†		1†		4々		3々	
		C英語Ⅲ・R		1†		1†		1†		4々		3々	
	英語表現Ⅰ	英語表現Ⅰ・S	2	2▽									
		英語表現Ⅰ・U		2▽									
	英語表現Ⅱ	英語表現Ⅱ・L	4	2●		2●		2●		2&		2&	
英語表現Ⅱ・R		2●		2●		2●		2&		2&			
*英語表現 スルーリーディング	THR・L	1	1※		1\$		1\$		1♠ <sub>2</sub>		1▽ <sub>2</sub>		
	THR・R		1※		1\$		1\$		1♠ <sub>2</sub>		1▽ <sub>2</sub>		
家庭 情報	家庭基礎 社会と情報		2			2		2					
C 共通科目単位数			計	31		30~33		33		25~33		30~33	
音楽	ソルフェージュ		6~12							2♠			
美術	素描		2~16							2♠			
家庭	子ども文化		2~4							2♠			
	食文化		1~2							1∞ <sub>2</sub>		1∞	
体育	スポーツⅠ		3~6			3◆							
	スポーツⅡ		3~6							2♠			
理 数	*サイエンス実践		1							1∞ <sub>2</sub>		1∞	
	*数学ハイパー		2									2▽ <sub>1</sub>	
	*数学ウルトラ	数学ウルトラ・L	2~3							2∞ <sub>1</sub>			
数学ウルトラ・R								3∞					
エ ン サ イ	*AFP実践		1	1* <sub>2</sub>									
	*AFP研究		2	2* <sub>1</sub>									
D 専門科目単位数			計	3		0~3		0		0~8		0~3	
E 特別活動(ホームルーム活動時数)				1(39)		1(39)		1(39)		1(39)		1(39)	
F 総合的な学習の時間(AMAKI学)				* <sub>2</sub>		1		1		1		1	
C+D+E+F 週当たり授業時数			計	35		35		35		35		35	

【備考】卒業に必要な修得単位数(74)単位 在学中の履修可能単位数(102)単位

- \*印のついた教科、科目は学校設定教科または学校設定科目。
- \$, ☆, ★, ♪, △, ○, ▽, ♪, ◆, #, ◇, □, ▼, †, ●, ※, \$, 全, ∴, ♪, !, ?, Σ, Φ, @, \*, ¥, 々, &, ∴印は、これらの中から1科目または1科目群を選択。
- ▽印については、文系は▽から1科目または化学基礎、生物基礎の2科目を選択。理系は▽1, ▽2それぞれから1科目を選択。
- ∞印については、∞1と∞2からそれぞれ1科目ずつの計2科目、もしくは∞の科目を選択。
- ♠印については、♠1, ♠2, の中からそれぞれ1科目ずつの計2科目と♠の中から1科目を選択。もしくは♠の中から2科目を選択。
- ▽印については、▽1の中から1科目と▽2の中から1科目を選択。
- 1~2年次の「数学Ⅱ」「数学B」「物理基礎」「化学基礎」「生物基礎」「保健」「コミュニケーション英語Ⅱ」、2~3年次の「現代文B」「日本史B(理系)」「地理B(理系)」「数学Ⅲ(理系)」「物理(理系)」「化学(理系)」「生物(理系)」「コミュニケーション英語Ⅲ」「英語表現Ⅱ」は継続履修とする。
- 1年次の「数学Ⅱ」は「数学Ⅰ」の履修後に、「数学B」は「数学Ⅰ」の履修後に履修させる。
- 1年次の「コミュニケーション英語Ⅱ」は「コミュニケーション英語Ⅰ」の履修後に、2年次の「コミュニケーション英語Ⅲ」は「コミュニケーション英語Ⅱ」の履修後に履修させる。
- 理系2年次では、「数学Ⅱ」の履修後「数学Ⅲ」を履修させる。
- 2, 3年次の「総合的な学習の時間」は年間指導計画にもとづき、週時程外での活動と組み合わせて実施する。
- 3年次文系の「音楽Ⅱ」、「美術Ⅱ」、「書道Ⅱ」は2年次に「音楽Ⅱ」、「美術Ⅱ」、「書道Ⅱ」を選択していない者のみが選択。
- 文部科学省のSSH指定の特例により「社会と情報」にかえて「AFP研究」を実施する。( \*<sub>1</sub>印)
- 文部科学省のSSH指定の特例により1年次の「総合的な学習の時間」(AMAKI学)にかえて「AFP実践」を実施する。( \*<sub>2</sub>印)

理数科 平成30年度及び31年度 入学者(第3年次及び2年次)

教科	科目	校内科目名	標準 単位数	理 数 科					
				1年		2年		3年	
				単位数		単位数		単位数	
前期	後期	前期	後期	前期	後期				
国語	国語総合		4	6					
	現代文B	現代文B・L	4			2		2Φ	
		現代文B・R						2Φ	
	古典B	古典B・L	4			3		2\$ 1♯ <sub>2</sub>	
古典B・R							2\$ 1♯ <sub>2</sub>		
地理歴史	世界史A		2	2					
	地理B		4			3		3	
公民	現代社会		2					2	
保健体育	体育		7~8	3		2		2	
	保健		2	1		1			
芸術	音楽 I		2	2◎					
	美術 I		2	2◎					
	書道 I		2	2◎					
外国語	コミュニケーション英語 I	C英語 I・S	3	3○					
		C英語 I・T		3○					
		C英語 I・U		3○					
	コミュニケーション英語 II	C英語 II・S	4	1●					
		C英語 II・T		1●					
		C英語 II・U		1●					
		C英語 II・L				3◇			
	コミュニケーション英語 III	C英語 III・L	4			1b		3∞	
		C英語 III・R				1b		3∞	
	英語表現 I	英語表現 I・S	2	2☆					
英語表現 I・U			2☆						
英語表現 II	英語表現 II・L	4			2★		2々		
	英語表現 II・R				2★		2々		
家庭	家庭基礎		2			2			
情報	社会と情報		2	* <sub>1</sub>		* <sub>1</sub>			
C 共通科目単位数			計	20		19		16~17	
理数	理数数学 I	理数数学 I・S	4~7	3△					
		理数数学 I・U		3△					
		理数数学 I・L		2▽					
		理数数学 I・R		2▽					
	理数数学 II	理数数学 II・S	9~13			5■			
		理数数学 II・U				5■			
		理数数学 II・L						6全	
	理数数学特論	理数数学特論・S	2~7	1#					
		理数数学特論・U		1#					
		理数数学特論・L				1¥			
		理数数学特論・R				1¥			
	理数物理	理数物理・L	2~12	2▼		3◆		4〒 3♯ <sub>3</sub>	
		理数物理・R		2▼		3◆		4〒 3♯ <sub>3</sub>	
	理数化学	理数化学・L	2~12	2†		3!		4. . 4. .	
		理数化学・R		2†		3!		4. . 4. .	
	理数生物	理数生物・L	2~12	2▲		3◆		4〒 3♯ <sub>3</sub>	
理数生物・R			2▲		3◆		4〒 3♯ <sub>3</sub>		
理数地学		2~12			3◆		4〒 3♯ <sub>3</sub>		
課題研究		2~6	* <sub>3</sub>		* <sub>3</sub>				
* 数学ハイパー		2					2♯ <sub>1</sub>		
* 物理探究		1					1♯ <sub>2</sub>		
* 化学探究		1					1♯ <sub>2</sub>		
* 生物探究		1					1♯ <sub>2</sub>		
* サイエンス	* 創生研究	1	1* <sub>1</sub>						
	* 発展研究	2	1* <sub>3</sub>		1* <sub>3</sub>				
	* 論文研究	2			2* <sub>1</sub> * <sub>2</sub>				
D 専門科目単位数			計	14		15		16~17	
E 特別活動(ホームルーム活動時数)				1(39)		1(39)		1(39)	
F 総合的な学習の時間(AMAKI学)				* <sub>2</sub>		1		1	
C + D + E + F 相当授業時数			計	35		36		35	

【備考】卒業に必要な修得単位数(74)単位 在学中の履修可能単位数(103)単位

- \*印のついた教科、科目は学校設定教科または学校設定科目。
- ◎、○、●、☆、△、▽、#、▼、†、▲、◇、b、★、■、¥、◆、!、Φ、\$, ∞、々、全、. .、〒印は、これらの中から1科目または1科目群を選択。
- ♯印については、♯1と♯2の中から1科目を選択。または♯3の中から1科目を選択。
- 1~2年次の「保健」「コミュニケーション英語II」「理数数学特論」「発展研究」、2~3年次の「現代文B」「コミュニケーション英語III」「英語表現II」「理数数学II」は継続履修とする。
- 1年次の「コミュニケーション英語II」は「コミュニケーション英語I」の履修後に、2年次の「コミュニケーション英語III」は「コミュニケーション英語II」の履修後に履修させる。
- 1年次の「理数数学特論」は「理数数学I」の履修後に履修させる。
- 2、3年次の「総合的な学習の時間」(AMAKI学)は年間指導計画にもとづき、週時程外での活動と組み合わせて実施する。
- 文部科学省のSSH指定の特例により「社会と情報」にかえて「創生研究」及び「論文研究」を実施する。( \*<sub>1</sub>印)
- 文部科学省のSSH指定の特例により1年次の「総合的な学習の時間」(AMAKI学)にかえて2年次に「論文研究」を実施する。( \*<sub>2</sub>印)
- 文部科学省のSSH指定の特例により1年次後期と2年次前期の「課題研究」にかえて「発展研究」を実施する。( \*<sub>3</sub>印)
- 「論文研究」については、2単位のうち1単位は週時程外で実施する。

普通科 令和2年度入学者(第1年次)

教科	科目	校内科目名	標準 単位数	普通科									
				1年		2年文系		2年理系		3年文系		3年理系	
				単位数		単位数		単位数		単位数		単位数	
				前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
国語	国語総合		4	6		1♪				1∞ <sub>2</sub>			
	現代文B	現代文B・L	4			2		2					
		現代文B・R						2Φ		2Φ			
	古典B	古典B・L	4			4		3				3\$ 1♣ <sub>1</sub>	
		古典B・R								3\$ 1♣ <sub>1</sub>		3\$	
* 評論研究		1									1∞		
地理歴史	世界史A		2	2									
	世界史B	世界史Bα	4			3◆				4@			
		世界史Bβ						2*		2♣			
		世界史実践								1∞ <sub>2</sub>			
	日本史A	日本史Aα	2			3#							
		日本史Aβ				3◆							
	日本史B	日本史Bα	4					3◆				3@	
		日本史Bβ								4@			
		日本史実践								2* 2♣		1∞	
	地理A	地理Aα	2			3#							
		地理Aβ				3◆							
	地理B	地理Bα	4					3◆				3@	
		地理Bβ								4@			
		地理実践								2* 2♣		1∞	
* 世界史研究		2									2♣		
* 日本史研究		2									2♣		
* 地理研究		2									2♣		
公民	現代社会	現代社会実践	2	2								1∞	
	倫理									2♣			
	政治・経済		2							2*			
数学	数学I	数学I・S	3	2\$									
		数学I・U		2\$									
	数学II	数学II・S	4	1☆		3◇		2◇					
		数学II・U		1☆		3◇		2◇					
	数学III	数学III・S	5					3全					
		数学III・U						3全					
		数学III・L										2'・	
	数学A	数学A・L	2	2★								2'・	
		数学A・R		2★									
	数学B	数学B・S	2	1ℓ									
		数学B・U		1ℓ									
数学B・L				2□		1□							
* 精選数学		1			1♪		1□						
* 応用数学	応用数学・L	4									4¥		
応用数学・R									4¥				
* 熟成数学	熟成数学・L	3~4							3¥		4¥		
	熟成数学・R								3¥		4¥		
理科	物理基礎		2	1		1							
		物理基礎・L						1'・					
		物理基礎・R						1'・					
	物理	物理・L	4					2?				4〒 <sub>1</sub>	
		物理・R						2?				4〒 <sub>1</sub>	
	化学基礎		2	1		1				2〒			
		化学基礎・L						2b					
	化学	化学・L	4					2Σ		4〒		4〒 <sub>2</sub>	
		化学・R						2Σ		2〒		4〒 <sub>2</sub>	
	生物基礎	生物基礎・L	2	1		1				2〒			
		生物基礎・R						1!					
生物	生物・L	4					2?		4〒		4〒 <sub>1</sub>		
	生物・R						2?				4〒 <sub>1</sub>		
理科課題研究		1									2▽ <sub>1</sub>		

教科	科目	校内科目名	標準 単 位 数	普通科									
				1年		2年文系		2年理系		3年文系		3年理系	
				単位数		単位数		単位数		単位数		単位数	
				前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
保健 体育	体育		7~8	3		2		2		2		2	
	保健		2	1		1		1					
芸 術	音楽Ⅰ		2	2△									
	音楽Ⅱ		2			3◆				2♠			
	音楽Ⅲ		2							2♠			
	美術Ⅰ		2	2△									
	美術Ⅱ		2			3◆				2♠			
	美術Ⅲ		2							2♠			
	書道Ⅰ		2	2△						2♠			
	書道Ⅱ		2			3◆				2♠			
	書道Ⅲ		2							2♠			
外 語	コミュニケーション 英語Ⅰ	C英語Ⅰ・S	3	3○									
		C英語Ⅰ・T		3○									
		C英語Ⅰ・U		3○									
	コミュニケーション 英語Ⅱ	C英語Ⅱ・S	4	1◎									
		C英語Ⅱ・T		1◎									
		C英語Ⅱ・U		1◎									
		C英語Ⅱ・L				3▽		2▽					
	コミュニケーション 英語Ⅲ	C英語Ⅲ・L	4			1#		1#		4々		3々	
		C英語Ⅲ・R				1#		1#		4々		3々	
	英語表現Ⅰ	英語表現Ⅰ・S	2	2▽									
		英語表現Ⅰ・U		2▽									
	英語表現Ⅱ	英語表現Ⅱ・L	4			2●		2●		2&		2&	
英語表現Ⅱ・R				2●		2●		2&		2&			
*英語表現 スルーリーディング	THR・L	1			1※		1\$		1♠ <sub>2</sub>		1▽ <sub>2</sub>		
	THR・R				1※		1\$		1♠ <sub>2</sub>		1▽ <sub>2</sub>		
家庭 情報	家庭基礎 社会と情報		2			2		2					
C 共通科目単位数 計				31		30~33		33		25~33		30~33	
音楽	ソルフェージュ		6~12							2♠			
美術	素描		2~16							2♠			
家庭	子ども文化		2~4							2♠			
	食文化		1~2							1∞ <sub>2</sub>		1∞	
体育	スポーツⅠ		3~6			3◆							
	スポーツⅡ		3~6							2♠			
理 数	*サイエンス実践		1							1∞ <sub>2</sub>		1∞	
	*数学ハイパー		2									2▽ <sub>1</sub>	
	*数学ウルトラ	数学ウルトラ・L	2~3							2∞ <sub>1</sub>			
数学ウルトラ・R								3∞					
エン サ イ	*AFPエクスペリション		1	1* <sub>2</sub>									
	*AFPリサーチ		2	2* <sub>1</sub>									
D 専門科目単位数 計				3		0~3		0		0~8		0~3	
E 特別活動(ホームルーム活動時数)				1(39)		1(39)		1(39)		1(39)		1(39)	
F 総合的な探究の時間(AMAKI学)				* <sub>2</sub>		1		1		1		1	
C + D + E + F 週当たり授業時数 計				35		35		35		35		35	

【備考】卒業に必要な修得単位数(74)単位 在学中の履修可能単位数(102)単位

- \*印のついた教科、科目は学校設定教科または学校設定科目。
- \$, ☆, ★, ♪, △, ○, ◎, ∇, ♪, ◆, #, □, ▼, †, ●, ※, \$, 全, ∴, ♪, !, ?, Σ, Φ, @, \*, ¥, ♪, &, ∴印は、これらの中から1科目または1科目群を選択。
- 〒印については、文系は〒から1科目または化学基礎、生物基礎の2科目を選択。理系は〒1, 〒2それぞれから1科目を選択。
- ∞印については、∞1と∞2からそれぞれ1科目ずつの計2科目、もしくは∞の科目を選択。
- ♠印については、♠1, ♠2, の中からそれぞれ1科目ずつの計2科目と♠の中から1科目を選択。もしくは♠の中から2科目を選択。
- ▽印については、▽1の中から1科目と▽2の中から1科目を選択。
- 1~2年次の「数学Ⅱ」「数学B」「物理基礎」「化学基礎」「生物基礎」「保健」「コミュニケーション英語Ⅱ」、2~3年次の「現代文B」「日本史B(理系)」「地理B(理系)」「数学Ⅲ(理系)」「物理(理系)」「化学(理系)」「生物(理系)」「コミュニケーション英語Ⅲ」「英語表現Ⅱ」は継続履修とする。
- 1年次の「数学Ⅱ」は「数学Ⅰ」の履修後に、「数学B」は「数学Ⅰ」の履修後に履修させる。
- 1年次の「コミュニケーション英語Ⅱ」は「コミュニケーション英語Ⅰ」の履修後に、2年次の「コミュニケーション英語Ⅲ」は「コミュニケーション英語Ⅱ」の履修後に履修させる。
- 理系2年次では、「数学Ⅱ」の履修後「数学Ⅲ」を履修させる。
- 2, 3年次の「総合的な探究の時間」は年間指導計画にもとづき、週時程外での活動と組み合わせて実施する。
- 3年次文系の「音楽Ⅱ」、「美術Ⅱ」、「書道Ⅱ」は2年次に「音楽Ⅱ」、「美術Ⅱ」、「書道Ⅱ」を選択していない者のみが選択。
- 文部科学省のSSH指定の特例により「社会と情報」にかえて「AFPリサーチ」を実施する。(\*<sub>1</sub>印)
- 文部科学省のSSH指定の特例により1年次の「総合的な探究の時間」(AMAKI学)にかえて「AFPエクスペリション」を実施する。(\*<sub>2</sub>印)

理数科 令和2年度入学者(第1年次)

教科	科目	校内科目名	標準 単 位 数	理 数 科					
				1年		2年		3年	
				単位数		単位数		単位数	
				前期	後期	前期	後期	前期	後期
国 語	国語総合		4	6					
	現代文B	現代文B・L	4			2			
		現代文B・R						2Φ	
	古典B	古典B・L	4			3			
古典B・R						2\$ 1℞ <sub>2</sub>			
地理 歴史	世界史A		2	2					
	地理B		4			3		3	
公民	現代社会		2					2	
保健 体育	体育		7~8	3		2		2	
	保健		2	1		1			
芸 術	音楽 I		2	2◎					
	美術 I		2	2◎					
	書道 I		2	2◎					
	外 国 語	コミュニケーション 英語 I	C英語 I・S	3	3○				
C英語 I・T			3○						
C英語 I・U			3○						
コミュニケーション 英語 II		C英語 II・S	4	1●					
		C英語 II・T		1●					
		C英語 II・U		1●					
		C英語 II・L				3◇			
コミュニケーション 英語 III		C英語 III・L	4			3◇			
		C英語 III・R				1b		3∞	
英語表現 I		英語表現 I・S	2	2☆					
	英語表現 I・U	2☆							
英語表現 II	英語表現 II・L	4			2★		2々		
	英語表現 II・R				2★		2々		
家庭 情報	家庭基礎		2			2			
	社会と情報		2	* <sub>1</sub>				* <sub>1</sub>	
C 共通科目単位数			計	20		19		16~17	
理 数	理数数学 I	理数数学 I・S	4~7	3△					
		理数数学 I・U		3△					
		理数数学 I・L		2▽					
		理数数学 I・R		2▽					
	理数数学 II	理数数学 II・S	9~13			5■			
		理数数学 II・U				5■			
		理数数学 II・L						6全	
		理数数学 II・R						6全	
	理数数学特論	理数数学特論・S	2~7	1#					
		理数数学特論・U		1#					
		理数数学特論・L				1¥			
		理数数学特論・R				1¥			
	理数物理	理数物理・L	2~12	2▼		3◆		4〒 3℞ <sub>3</sub>	
		理数物理・R		2▼		3◆		4〒 3℞ <sub>3</sub>	
理数化学	理数化学・L	2~12	2†		3!		4. 4.:		
	理数化学・R		2†		3!		4. 4.:		
理数生物	理数生物・L	2~12	2▲		3◆		4〒 3℞ <sub>3</sub>		
	理数生物・R		2▲		3◆		4〒 3℞ <sub>3</sub>		
理数地学		2~12			3◆		4〒 3℞ <sub>3</sub>		
課題研究		2~6	* <sub>3</sub>		* <sub>3</sub>				
* 数学ハイパー		2					2℞ <sub>1</sub>		
* 物理探究		1					1℞ <sub>2</sub>		
* 化学探究		1					1℞ <sub>2</sub>		
* 生物探究		1					1℞ <sub>2</sub>		
* サ スイ エン	* ASE 1st Stage		1	1* <sub>1</sub>					
	* ASE 2nd Stage		2			1* <sub>3</sub>		2* <sub>1</sub> * <sub>2</sub>	
	* ASE 3rd Stage		2			1* <sub>3</sub>		2* <sub>1</sub> * <sub>2</sub>	
D 専門科目単位数			計	14		15		16~17	
E 特別活動(ホームルーム活動時数)				1(39)		1(39)		1(39)	
F 総合的な探究の時間(AMAKI学)				* <sub>2</sub>		1		1	
C+D+E+F 週当たり授業時数			計	35		36		35	

【備考】卒業に必要な修得単位数(74)単位 在学中の履修可能単位数(103)単位

- \*印のついた教科、科目は学校設定教科または学校設定科目。
- ◎、○、●、☆、△、▽、#、▼、†、▲、◇、b、★、■、¥、◆、!、Φ、\$, ∞、々、全、.:、〒印は、これの中から1科目または1科目群を選択。
- 2℞印については、℞1と℞2の中から1科目を選択。または℞3の中から1科目を選択。
- 1~2年次の「保健」「コミュニケーション英語Ⅱ」「理数数学特論」「発展研究」、2~3年次の「現代文B」「コミュニケーション英語Ⅲ」「英語表現Ⅱ」「理数数学Ⅱ」は継続履修とする。
- 1年次の「コミュニケーション英語Ⅱ」は「コミュニケーション英語Ⅰ」の履修後に、2年次の「コミュニケーション英語Ⅲ」は「コミュニケーション英語Ⅱ」の履修後に履修させる。
- 1年次の「理数数学特論」は「理数数学Ⅰ」の履修後に履修させる。
- 2、3年次の「総合的な探究の時間」(AMAKI学)は年間指導計画にもとづき、週時程外での活動と組み合わせて実施する。
- 文部科学省のSSH指定の特例により「社会と情報」にかえて「ASE 1st Stage」及び「ASE 3rd Stage」を実施する。( \*<sub>1</sub>印)
- 文部科学省のSSH指定の特例により1年次の「総合的な探究の時間」(AMAKI学)にかえて2年次に「ASE 3rd Stage」を実施する。( \*<sub>2</sub>印)
- 文部科学省のSSH指定の特例により1年次後期と2年次前期の「課題研究」にかえて「ASE 2nd Stage」を実施する。( \*<sub>3</sub>印)
- 「ASE 3rd Stage」については、2単位のうち1単位は週時程外で実施する。

令和2年度 教育課程編成表

岡山県立倉敷天城中学校

学校教育目標	1 科学的思考力と創造力を身に付け、 2 1世紀の社会を各分野で主体的に担っていくことができる生徒の育成			指導の重点	1 学力の向上					
	2 幅広い知識と国際的な感覚を身に付け、国際社会で活躍できる知的バランスのとれた生徒の育成 3 豊かな人間性をもち、自分を律し他を尊重しながら個性を伸長する意欲ある生徒の育成				2 科学的思考力・創造力の伸長と主体性の育成 3 国際社会に生きるための教養と行動力の育成 4 豊かな人間性の育成					
年間授業日数				授業時数の配当						
学年	1	2	3	特別 学校 行事	区分	学年	1	2	3	
日数	198	199	191		儀式的行事		5(4.5)	6(5.4)	5(4.5)	
授業時数の配当					学芸的行事		16(14.4)	16(14.4)	16(14.4)	
区分	学年	1	2		3	健康安全・体育的行事		13(11.7)	11(9.9)	11(9.9)
必修 教科	国語	175.5(157.5)	175.5(157.5)		195(175)	旅行・集団宿泊的行事		14(12.6)	14(12.6)	28(25.2)
	社会	136.5(122.5)	136.5(122.5)		156(140)	勤労生産・奉仕的行事		2(1.8)	37(33.3)	2(1.8)
	数学	175.5(157.5)	195(175)		195(175)	計		50(45)	84(75.6)	62(55.8)
	理科	136.5(122.5)	156(140)		156(140)	1日の時程表		その他学校の教育活動に関する事項		
	音楽	58.5(52.5)	39(35)		39(35)	(通常)		①2学期制の導入 前期4月～9月、後期10月～3月とし 前期19週、後期20週で授業時数を算定。 前期と後期で時間割を編成する。  ②45分授業の導入 45分×7限の授業を週に4日の割合で 行うことを原則とするが、1学年前期の開 始時期は、7校時を入れない暫定時間割と し、担任などとの面談を計画する。  ③「サイエンス」の設定 学校設定教科として「サイエンス」を設 定し、科学的なものの見方や考え方を身に 付けることに重点をおいて活動する。  ④総合的な学習の時間の設定 「グローバル」と「AMAKI学」に分け、 「グローバル」では日本語や英語で会話を する能力や自分の意志や考えを表現するこ とに、「AMAKI学」では身近な生活から日 本社会さらには国際社会へと関心の対象を 広げていく中で、適性を見つけることに重 点をおいて活動する。  ⑤学校行事・生徒会活動・部活動の設定 活動内容により、中高合同で行うものと 中学校単独で計画し行うものを設定する。  ※「サイエンス」は「選択教科」となっているが、全生徒 を対象に実施する。		
	美術	58.5(52.5)	39(35)		39(35)	8:20	朝の会			
	保健体育	117(105)	117(105)	117(105)	8:25	朝の読書				
	技術・家庭	78(70)	78(70)	39(35)	8:40	1校時				
外国語	175.5(157.5)	195(175)	195(175)	9:25	2校時					
選択 教科	国語				9:35	3校時				
	国語(書写)				10:20	4校時				
	社会				10:30	昼食 休憩				
	数学				11:15	5校時				
	理科				11:25	6校時				
	音楽				12:10	7校時				
	美術				12:55	清掃				
	保健体育				13:40	15:30	15:35			
	技術・家庭				13:50	15:45	15:50			
	外国語				14:35	15:50	16:00			
	サイエンス	39(35)	39(35)	39(35)	14:45	16:00	17:30			
道徳	39(35)	39(35)	39(35)	15:30	15:35	15:45				
総合的な学習の時間	グローバル	39(35)	39(35)	39(35)	15:45	15:50	16:00			
	AMAKI学	39(35)	39(35)	39(35)	15:50	16:00	17:30			
特別 活動	学級活動	39(35)	39(35)	39(35)	15:50	16:00	17:30			
	生徒会活動	(14(12.6))	(14(12.6))	(14(12.6))	15:50	16:00	17:30			
総授業時数 [生徒会活動の時数を除く]	1306.5 (1172.5)	1326 (1190)	1326 (1190)	最終下校						

## 岡山県立倉敷天城高等学校

〒710-0132 岡山県倉敷市藤戸町天城269番地

TEL 086-428-1251 FAX 086-428-1253

URL <http://www.amaki.okayama-c.ed.jp/>

e-mail [amaki@pref.okayama.jp](mailto:amaki@pref.okayama.jp) (学校代表)

[amaki-ssh@pref.okayama.jp](mailto:amaki-ssh@pref.okayama.jp) (SSH)